

安全 安心で効率的な国際スポーツ大会の運営を実現

インドネシア・アジア競技大会2018組織委員会様

課題背景

- ・アジア競技大会2018を安全、安心に遂行したい
- ・インドネシアの3つの島で開催される競技のスムーズな運営
- ・競技に関する様々な機器を統合、運用したい

導入ソリューション

- ・NEC顔認証AIエンジン「Neo Face」及び行動検知システム
- ・メイン会場のGBKスタジアムでの高度なセキュリティを提供
- ・競技会場、関連施設130カ所を統合するネットワークシステム

成果

- ・第18回アジア競技大会の安全、安心な運営に貢献
- ・130カ所をつなぐネットワークシステムを構築し、効率的な大会運営を実現
- ・セキュリティシステムは、大会後もスタジアムで活用

はじめに

アジア競技大会は世界で最も大きな国際総合競技大会の一つで、会場には非常に多くの人が集まります。インドネシアで開催されたアジア競技大会2018には、45カ国から16,000人の選手が参加し、競技会場や関係施設は130カ所にのぼりました。このように大規模で世界的なイベントを開催するにあたり、インドネシア・アジア競技大会組織委員会(INASGOC)が重視したのがセキュリティでした。組織委員会は、ジャカルタにあるメイン会場のゲロラ・ブン・カルノ・スタジアム(GBKスタジアム)だけでなく全ての会場に、高性能で効率的な監視システムの導入が必要だと考え、大会の成功を確実なものとするために、NECの顔認証、行動検知といったセキュリティシステム、及びネットワークシステムが導入・運用されました。

導入の背景や課題



INASGOC
ディレクター
パンジ・チョシン氏

2018年、アジア競技大会は初めてインドネシアの首都ジャカルタと、南スマトラの州都パレンバンの2都市共催で開催されました。競技は3つのインドネシア諸島で行われ、大会を円滑に運営するために20,000人以上のボランティアやスタッフが配置されました。主催者側の主な課題は、海外からの観光客80,000人に安全に大会を楽しんでもらうことでした。アジア競技大会のITディレクター、パンジ・チョシン氏は「政治状況などからもセキュリティはたいへん重要であり、サイバーセキュリティは常に課題となるものです」と話します。

ICTシステムは、人に察知されることなく、置き去りにされたものや、立ち入り禁止場所に侵入するといった人の動きを検知し、更にアジア競技大会で使用される各種の機器、設備、インフラと統合できるものでなければなりませんでした。加えて、電力が不安定であったり、インフラの整っていない辺鄙な場所にICTシステムを導入することも課題でした。チョシン氏は経験値の高さからNECを選んだと話します。「1962年に開催された第4回アジア競技大会にはじまり、NECにはインドネシアでの実務経験がある。技術の展開、機器の導入、また一番重要なことである、機器設備の構築や運用をサポートしてきた経験が豊富なのです。」



ソリューション



NEC インドネシア
事業部長代理
ウェリー・タルナ・
ウイジャヤ氏

NEC は、GBK スタジアムで使用する顔認証などのセキュリティ及び、競技会場、大会関係事務所の計 130 力所を接続するネットワークシステムの二つのソリューションを提供しました。

NEC の顔認証技術を有する NEC 映像分析基盤は、大会の開会式と閉会式が行われたジャカルタの GBK スタジアムで使用されました。約

70 台のカメラがスタジアム全体に設置され、

入場者一人ひとりの顔を捉え、カメラの映像から事前登録した不審者検知を実施。また、不審な行動や不審物の置き去りも検知するこのシステムは、リアルタイムで映像を分析し、現場の警備員に警告を送ります。NEC でアジア競技大会のプロジェクト・マネージャーを務めたウェリー・タルナ・ウイジャヤ氏は「我々のシステムは、顔認証や行動検知といった機能をもっています。例えば立ち入り禁止区域への侵入行動を検知したり、他には放置された不審物を検知することが可能です。」と話します。このシステムは各種の映像解析技術を一つのプラットフォーム上で統一し、安全で安心・快適な社会をつくるために様々な場面で使える高度なソリューションを実現しています。

NEC は顔認証技術において世界を牽引し、アメリカ国立標準技術研究所 (NIST) が 2017 年に行ったテストでは最高評価を獲得しました。「我々の顔認証技術は、精度とスピードという点で世界一だと評価されています」とウイジャヤ氏は話します。こうした機能は、NEC 映像分析基盤のプラットフォームに統一され、観客にとって安全で安心できる環境を提供します。ウイジャヤ氏は「NEC は、エンド・トゥ・エンドのソリューションを提供しています」と述べています。

さらに NEC は、アジア競技大会の運営に欠かすことのできないネットワークシステムを提供しました。「アジア競技大会において、NEC はシステムインテグレーションを提供しました」と、アジア競技大会の ICT プロジェクト管理を担当した

NEC のフランキー・ローレンス氏は言います。
「NEC は INASGOC が持つ全てのインフラ設備、機器をネットワークでつなぎ、競技会場を統合したのです。」

大会の運営、競技に係る既存の会場設備や様々なシステムがネットワークで統合され、大会運営のため全体統合されることが求められました。「NEC の役割は、会場間のシステムをつなぐことから、ソフトウェア、アプリケーションのためのクラウドサービスに至るまでを実現させることでした。」



NEC インドネシア
事業部長代理
フランキー・ローレンス氏



導入後の成果

インドネシアで開催された第 18 回アジア競技大会は、成功裏に終わりました。NEC のセキュリティシステムとネットワークシステムを導入したことで大きな問題もなく、そしてインドネシア国内の会場 130 力所をつなぐという課題解決に大きな成功を収めました。NEC の顔認証技術を導入することで、潜在的に危険な状況が特定され、競技を楽しむ来場者に混乱を生じさせることなく大会運営ができたのです。

アジア競技大会の ITT ディレクター、パンジ・チョシン氏は、「NEC と連携することで、大会中に何かが起きたら、すぐに対処できる仕組みや体制ができました。」と話します。NEC の顔認証技術によって来場者のシームレスな入退場が可能になりました。これらのシステムは、アジア競技大会後も GBK スタジアムで継続活用されていきます。



お客様プロフィール

インドネシア・アジア競技大会2018 大会組織委員会

- インドネシア政府による大会運営組織

ゲロラ・ブン・カルノ・スタジアム

- アジア競技大会メイン会場、1962 年設立